

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の江東区の状況について【小学校・義務教育学校（前期課程）】

令和7年12月8日
指導室

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校・義務教育学校
第6学年児童
(3,853人実施)

3 調査方法・内容

- (1)児童に対する調査
- ①教科に関する調査
(国語、算数、理科)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
- ②質問調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (2)学校に対する調査
学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

令和7年4月17日(木)

5 教科に関する調査（国語、算数、理科）の結果の概要

国語・算数・理科

太字ゴシック（網掛け）：全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック：全国のみ上回ったもの

・令和7年度

	国語		算数		理科	
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	72	102.8	67	104.7	61	101.7
東京都	70	100	64	100	60	100
全国	66.8	95.4	58.0	90.6	57.1	95.2

・参考（令和6年度）

	国語		算数	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	73	104.3	72	105.9
東京都	70	100	67	100
全国	67.7	96.7	62.5	93.2

各教科の調査結果について

【国語】

- 「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国65.5%、都69.7%に対し、本区74.2%と国、都より高い正答率だった。
- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国56.3%、都56.5%、本区61.6%と国、都より高いものの、全体的に低い正答率だった。

【算数】

- 「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国74.5%、都78.9%に対し、本区81.3%と国、都より高い正答率だった。
- 「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、国23.0%、都29.7%、本区34.1%と国、都より高いものの、4割を切る低い正答率だった。

【理科】

- 「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、学習したことを関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、国60.9%、都63.9%に対し、本区67.2%と国、都より高い正答率だった。
- 「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国29.9%、都33.4%、本区33.5%と国、都より高いものの、4割を切る低い正答率だった。

6 江東区長期計画の指標との関連（ ）内は令和6年度の数値

指標名	目標値 令和11年度	令和7年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	107	103.0 (105.1)	100	93.7 (95.0)
自分にはよいところがあると思う児童の割合	100%	87.3% (83.3%)	87.2% (84.5%)	86.9% (83.1%)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	100%	95.5% (94.8%)	95.6% (94.9%)	96.4% (95.9%)

7 児童質問調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している児童の割合は、国86.5%、都86.1%、本区85.9%（令和6年度比 国+1.7ポイント、都+1.8ポイント、本区+2.2ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、国86.9%、都87.2%、本区は87.3%（令和6年度比 国+3.8ポイント、都+2.7ポイント、本区+4.0ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合は、国97.2%、都96.4%、本区は96.6%（令和6年度比 国+0.5ポイント、都+0.5ポイント、本区+1.1ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が微増している。

○ 授業におけるICT機器の活用について

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」で週3回以上と答えた児童の割合は、国71.7%、都75.9%、本区は79.7%（令和6年度比 国+12.2ポイント、都+11.6ポイント、本区+9.1ポイント）であり、前回調査から肯定的な回答が大幅に増加している。

8 こうとう学びスタンダードネクスト・ステージとの関連（ ）内は令和6年度の数値

質問項目	江東区	東京都	全国
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.7% (82.7%)	81.0% (81.8%)	80.3% (81.9%)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか	85.0% (86.2%)	84.7% (85.7%)	84.9% (86.3%)

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年生徒
義務教育学校第9学年生徒
(2,540人実施)

3 調査方法・内容

(1) 生徒に対する調査

① 教科に関する調査

(国語、数学、理科※)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。

※理科は CBT による調査

② 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況に関する調査

4 調査実施日

令和7年4月17日(木)

5 教科に関する調査（国語、数学、理科）の結果の概要

国語・数学・理科

・令和7年度

	国語		数学		理科 IRT スコア					
	正答率	計算値	正答率	計算値	1	2	3	4	5	平均値
江東区	58	101.8	54	101.9	3.0	24.2	46.3	21.5	5.0	507
東京都	57	100	53	100	3.6	25.7	43.8	21.4	5.5	506
全国	54.3	94.7	48.3	91.1	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2	503

・参考（令和6年度）

	国語		数学	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	62	101.6	57	100
東京都	61	100	57	100
全国	58.1	95.2	52.5	92.1

各教科の調査結果について

【国語】

○「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国63.3%、都67.4%に対し、本区70.4%と国、都より高い正答率だった。

○「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国30.1%、都34.2%、本区35.7%と国、都より高いものの、全体的に低い正答率だった。

【数学】

○「事柄が常に成り立つとは限らないということを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国62.8%、都67.5%に対し、本区69.2%と国、都より高い正答率だった。

○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国38.0%、都43.9%、本区45.2%と国、都より高いものの、5割を切る低い正答率だった。

【理科】

○「科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる」問題の正答率は、国79.4%、都80.3%に対し、本区82.1%と国、都より高い正答率だった。

○「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる」問題の正答率は、国46.2%、都45.9%、本区46.8%と国、都より高いものの、5割を切る低い正答率だった。

太字ゴシック（網掛け）：全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック：全国のみ上回ったもの

6 江東区長期計画の指標との関連（ ）内は令和6年度の数値

指標名	目標値 令和11年度	令和7年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	105	101.8 (100.8)	100	92.9 (93.7)
自分にはよいところがあると思う生徒の割合	100%	87.1% (82.8%)	86.7% (83.4%)	86.2% (83.3%)
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合	100%	95.6% (93.4%)	95.3% (93.9%)	96.6% (95.2%)

7 生徒質問調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している生徒の割合は、国86.1%、都86.5%、本区87.0%（令和6年度比 国+2.3ポイント、都+2.5ポイント、本区+4.8ポイント）であり、国や都の数値を上回り、肯定的な回答が増加している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は、国86.2%、都86.7%、本区は87.1%（令和6年度比 国+2.9ポイント、都+3.3ポイント、本区+4.3ポイント）である。国や都の数値を上回り、肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合は、国95.9%、都95.2%、本区は95.2%（令和6年度比 国+0.7ポイント、都+0.5ポイント、本区+2.0ポイント）である。国と比較すると若干低い数値であるが、前回調査から肯定的な回答が増加している。

○ 授業における ICT 機器の活用について

「1、2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」で週に3回以上と答えた生徒の割合は、国76.5%、都80.1%、本区は80.4%（令和6年度比 国+11.1ポイント、都+12.0ポイント、本区+18.0ポイント）であり、前回調査から肯定的な回答が大幅に増加している。

8 こうとう学びスタンダードネクスト・ステージとの関連（ ）内は令和6年度の数値

質問項目	江東区	東京都	全国
1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.7% (77.9%)	78.8% (80.6%)	77.7% (80.3%)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか	84.0% (83.7%)	85.2% (85.5%)	84.7% (86.1%)